

最優秀賞

「Relight Tray」 大手前大学 萩原 凜

Relight Tray

食べるたび、希望をもう一度灯す。

病院で過ごす入院患者にとって食べることは、生きること、病気と闘う上で欠かせない行為でありながら、病気や治療によって食欲を失ってしまう人も少なくない。ReLight Trayは、食事を進めるたびに光が灯るトレー。全部食べ終えたときトレーは黄色に輝く。この光は「頑張った証」となり、患者に希望と励ましを届ける。

一口でも多く食べてほしい



そのあかりがあなたの“頑張る力”になる



● 0% (未食): 光らない



● 30% (食べ始め): 赤色



● 60%: オレンジ色



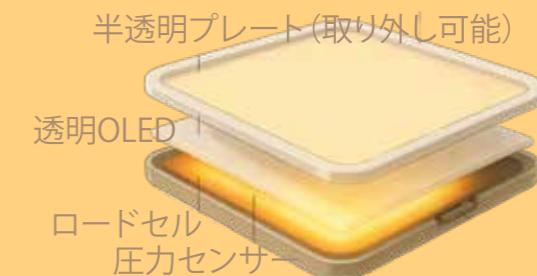
● 100% (完食): 黄色

赤・オレンジ・黄色といった暖色系の色を目につくと血圧や脈拍が上昇し、体温が上がることで、自然と食欲が増進するといわれている。

また、暖色は料理をより美味しいように見せる視覚的効果も持ち、食事に温かみや安心感を与える。

一口でも食べれたら、その瞬間に光がポッと灯る。少しづつ光が増えていき、食べ進めるごとに色が変化する。

〈断面構造図〉



・写真の取り込み
スマートフォンと連携し
画像をトレーに送信

照明制御:

食器下に「圧力センサー」を配置し、
食事の減少に応じて光の明るさや色を変化させる。
太陽光スペクトルLEDの導入
自然光に近い照明環境は、セロトニン分泌や
体内リズムの安定にもつながり、
長期入院患者の心理的ストレスを軽減する可能性がある。



トレーに写真を取り込めば全部食べ終わったときに光の中には、
家族の思い出の写真を浮かび上がるよう設定できる。
「食べられた」という小さな達成が、目に見える励ましかたちとなる。
清潔で安全な構造を保ちながら、「光で励ます」仕組みを実現している。

入選

「形状変幻のいろどり」 立命館大学 早田 海那美

「食TOMOくん -食卓を『共』にする灯しひ-」 大手前大学 松原 由采

「ひとつくちランプ」 大手前大学 江藤 莉彩

「和円」 大阪芸術大学 大田 真央

「Hapikaru」 滋賀県立大学 田丸 ひより

形状変幻のいろどり



CHEERS

MAIN

DESSERT

提案背景 *—食事と体験—*

SNS が発展した現代の食空間では、食事そのものだけでなく、雰囲気や体験の質が重視されるようになっている。

そこで本提案では、時間の移ろいと人々の気分、そして食事の楽しさをより豊かに感じられるような「光による体験」を創出することを目的とした。

食事の進行に合わせて変化する照明を通じて、空間そのものが生きているような新たな食体験を提供したいと考えた。

コンセプト *—移ろう光が紡ぐ食空間—*

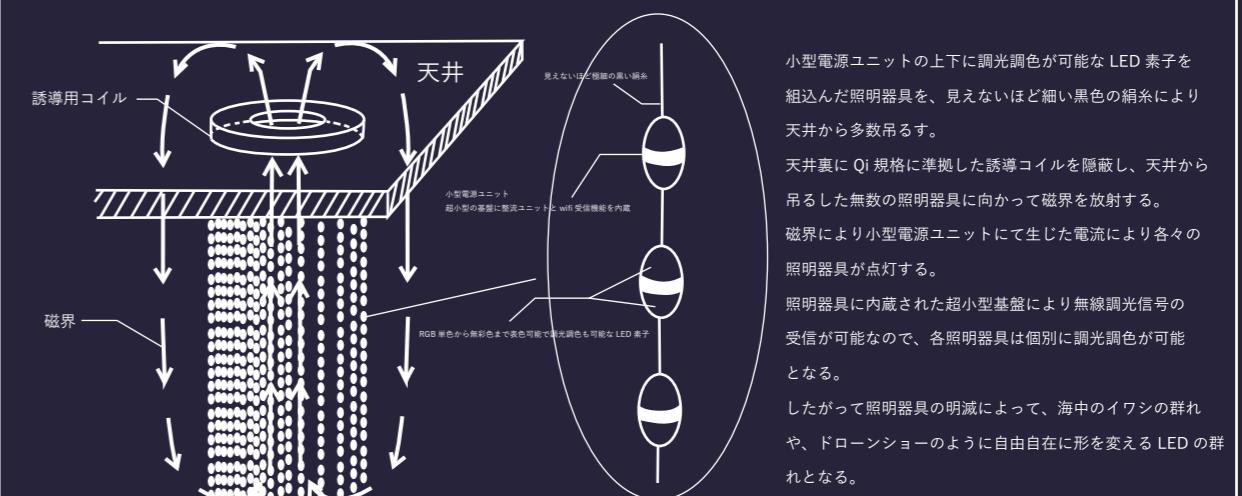
本提案は、一つ一つの照明がその時々の雰囲気に合わせて形や色を変化させる「形状変幻照明」である。

「闊達」「賑やかさ」「楽しさ」をイメージし、まるでイワシの群れが形を変えるように変化する。

食べ始め、メインディッシュ、デザートの 3 つのシーンごとに照明が変化し、食卓の空気を自然に切り替わる。

これにより、食事を単なる行為から、光とともに時間の流れや感情の変化を味わう体験へと昇華させることを目指した。

システム図 *—形状変幻照明—*



小型電源ユニットの上下に調光調色が可能な LED 素子を組込んだ照明器具を、見えないほど細い黒色の絹糸により天井から多数吊るす。

天井裏に Qi 規格に準拠した誘導コイルを隠蔽し、天井から吊るした無数の照明器具に向かって磁界を放射する。

磁界により小型電源ユニットにて生じた電流により各々の照明器具が点灯する。

照明器具に内蔵された超小型基盤により無線調光信号の受信が可能なので、各照明器具は個別に調光調色が可能となる。

したがって照明器具の明滅によって、海中のイワシの群れや、ドローンショーのように自由自在に形を変える LED の群れとなる。

食 TOMOくん

- 食卓を『共』にする灯しひ -

光は、食卓の一員になる。

食べ物を照らすための道具ではなく、食を“共に過ごす仲間”として1つの時間を共有する光。光が共に時間を共有することで、一人の食卓にも、みんなの食卓にも、明るい空間が生まれる。

食 TOMOくんは、人と食、そして光が1つの時間を“共に過ごす”ための明かり。



光は、食卓の“もうひとり”

「いただきます」で灯り、「ごちそうさま」でやさしくおさめる



→「いただきます」でふわっと
点灯

→モードを選択し、笑い声や
会話など盛り上がりに合わせて
ゆるやかに変化

→「ごちそうさま」で優しく
減光し、静かに消灯

一仕組み

内部には音声センサーを搭載。

センサーが周囲の音量や音質をリアルタイムで解析し、会話や笑い声などのパターンに応じてLEDライトの明るさ・色温度を制御。

静かな時間には落ち着いた色に、にぎやかな時には暖かな光に変化。

さらに、「いただきます」「ごちそうさま」など特定の声をトリガーとして認識し、点灯や消灯を行う仕組みになっている。



モード設定

ひとりの時 一寄り添う光

キャンドルのように柔らかく揺らぐ光。

食器の音や小さな独り言に反応して、ふわっと光が動く。

孤食の時間でも、まるで誰かが隣にいて「おいしいね」と共感してくれるようなぬくもりを与える。



団らんの時 一つなぐ光

笑い声や会話が弾むと光があたたかく広がり、沈黙が続くと少し冷たい色に。

その変化が人の心を動かし、再び言葉を交わすきっかけをつくる。

光が人と人をそっとつなぎ、食卓にぬくもりを灯す。



大人数の時 一盛り上がる光

笑い声や拍手を感じると、光がパッと弾むよう明るくなる。

まるで食 TOMOくん自身がその場に笑顔で参加しているかのように、食卓全体をあたたかく包み込み、華やかな雰囲気を作り出す。

特別な日やパーティーでは、光が人と場をつなぎ、にぎやかな時間により楽しく演出する。



ひとつくちランプ

食事は単なる栄養補給ではなく、人と人の関係性を育む。“分け合う光”という発想は、食卓における心理的・情緒的体験に着目している。

このランプは、ひとつの光を“ちぎって渡す”という物理的な動作を通して、言葉のないコミュニケーションを生み出す。

《ひとつくちランプ》は、**触れる・分ける・戻す**という身体的操作からそんな分かち合いの温かさを光で表現した照明器具。

素材

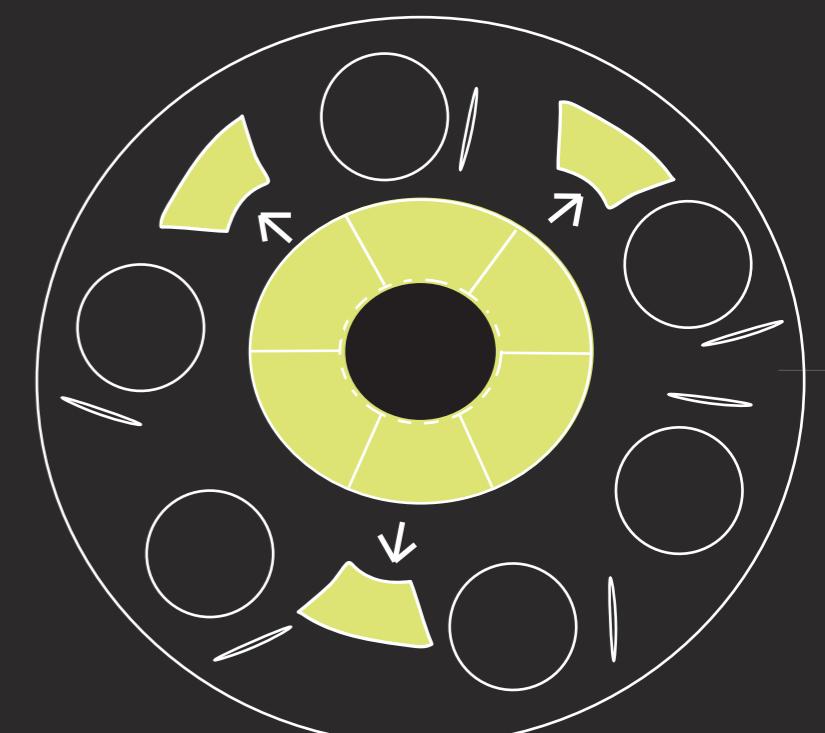
- ・形状はパン型の橢円で六分割に分かれしており、一つ一つが自分だけのミニライトになる。
- ・半透明シリコン素材でやわらかな手触りを持つ
→ 光の拡散が柔らかく、手で触れた時の温かみも表現
- ・LED+ワイヤレス給電
→ コードレスで自由に“分け合う”体験が可能、テーブル上の動きを妨げない
- ひとつずつが独立したコードレスミニライトとして機能

再び中央に戻すと、ランプ全体が呼吸するように淡く点滅し、食事の終わりをやさしく演出し余韻を光で残す

食卓を囲む人々がそれぞれ自分の“ひとつくち”を手に取り、自分の皿を照らしたり、隣の人に渡したりする。



分けた時のミニライト



手で触れて分けることで、食卓が単なる“食べる場所”から参加型の体験空間になる。

別れた小型ライトが皿を照らすことで、食材や料理の色味をより美しく見せる効果もある。

そして見た目のかわいらしさ+触って分ける楽しさで、子どもも大人も自然に参加し、光の温かさが食卓の会話をやさしく包むことから“ただの照明”じゃなく、コミュニケーションアイテムとして機能する。

「誰かと食卓を囲む」すべての空間に。

ひとつの光を分け合う行為そのものが、人と人をつなぐコミュニケーションのきっかけとなる。





和
わ

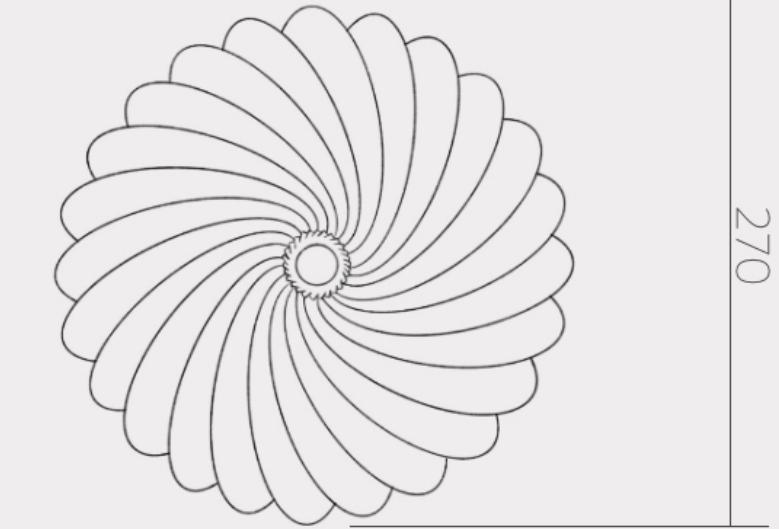
え
ん

"家族や仲間と大皿を囲み、同じ料理を取り分けて味わう"

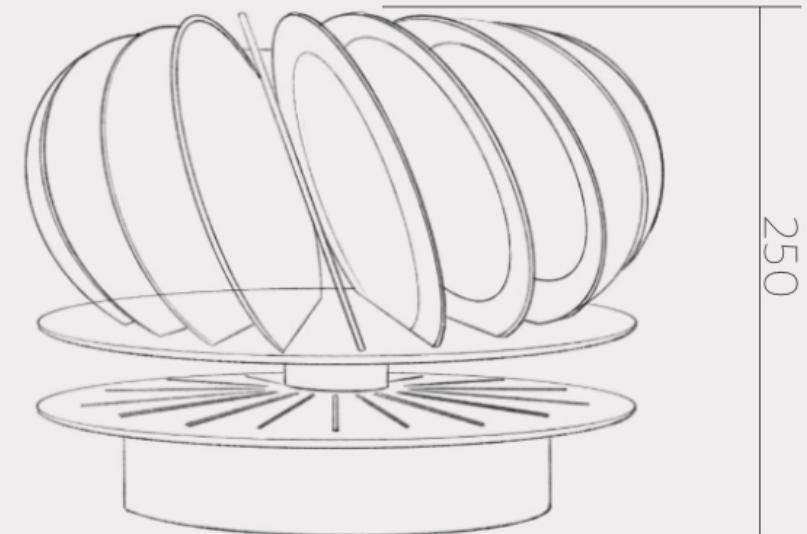
その行為には、ぬくもりが宿っています。

しかし、個食化が進む現代の暮らしにおいて、食卓を囲み、分け合うという行為は、特別な時間になります。

和円は、"ともに食す"ひとときのぬくもりをもう一度思い出させてくれる灯りです。



TOP VIEW



FRONT VIEW, SIDE VIEW

円状に並ぶ皿の中央に光源を配置し、食卓の中央に置いて使用します。食事の際には、光のまわりに並ぶ皿を取り皿として手にとり、同じ料理を共有します。

自分の手前の皿を取ると、その隙間から光がもれ、手元を照らします。

誰かが手を伸ばすたび、空間にやさしい灯りが増えていく、そんな"分かち合い"の情景をイメージしました。

食卓を囲み、同じ味を共有することで生まれ、広がる"わ"と"えん"

和円は、ぬくもりある食卓のための照明です。

Hapikaru

笑顔が光る 幸せのプレート

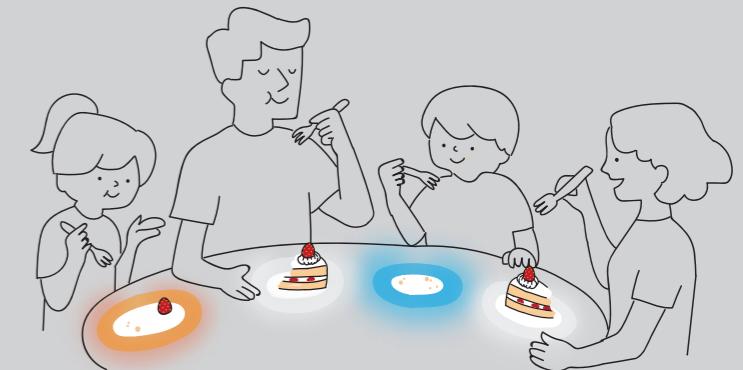


「おめでとう」を光で包むケーキプレート

ケーキを置くプレートをほんのり光らせて美味しさと楽しさをより演出します。

小さな子供のいる家庭や友達同士でのパーティーでは「火を使うろうそくが危険」、「一度しか使えない」という課題があります。

Hapikaru なら何度もろうそくの代わりとして使って、安全に楽しくお祝いの気持ちを届けることができます。



○重量センサで重さを感知し、食べた後は卓上照明にも

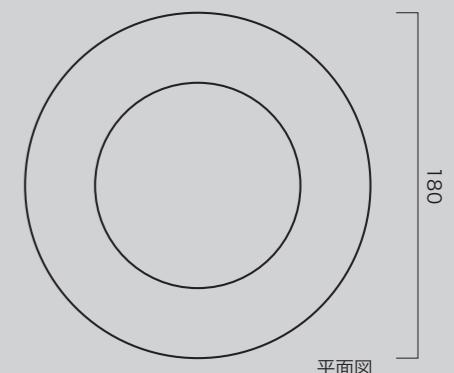


○LEDライトの光がケーキに
直接影響しない形と素材

外側は光をほんのり通し、内側は光を
通さないため照明による食欲低下を
防ぎます

素材・・・外側：すりガラス、LED

内側：陶器



獎 励 賞

「Meal Flow Liner」 大手前大学 海原 優花

Meal Flow Liner

～光で食を選ぶ感性を育てる学生食堂～

食材の魅力を最大限に引き出し、
学生の健康的な食選択をサポート
する！

コンセプト

現代の学生は、時間や嗜好の影響で栄養バランスが偏りやすい。

そのため、照明の色温度・明るさが食材の見え方や選択行動に与える心理的効果に注目し、「光で食を選ぶ感性を育てる」空間を提案する。

現状と課題

現代の学生食堂では、若い世代は揚げ物や炭水化物などのガツツリ系を好む傾向があり、栄養バランスの偏りや食の選択に対する無意識的な傾向が課題となっている。そこで、食べ物を照らす照明の色温度やDUVを変えることで、学生たちは光による食べ物の色や印象を直感的に感じられ、学生たちに栄養バランスの良い「食の選択」を誘導する。



照明によって”食の選択”を導く空間デザイン



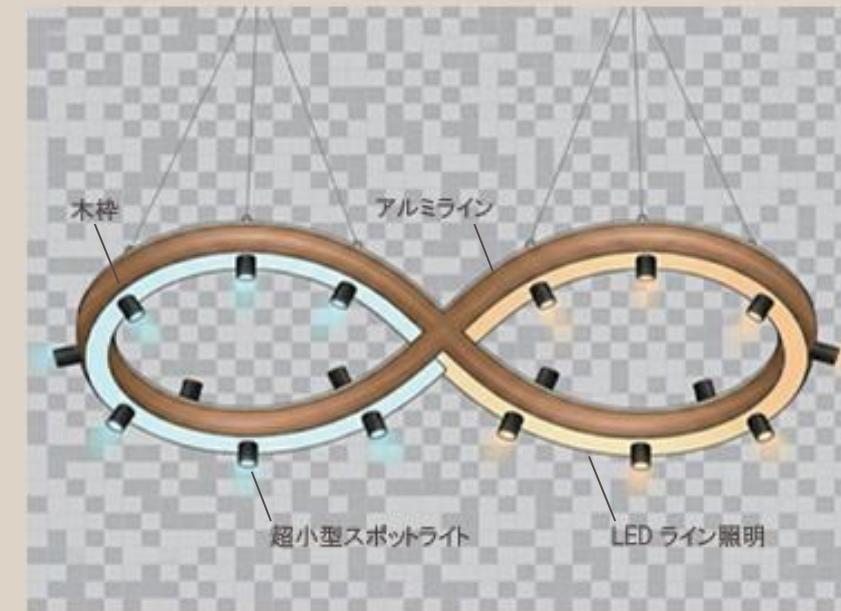
- 食券コーナー：色温度 5000K で明るく清潔感
- サラダバー：色温度 4500K で野菜の色によって DUV を調整して鮮やかさを強調（例えば、緑色の野菜には、DUV+とする）
- 揚げ物コーナー：色温度 3000K で温かみとご褒美感を演出
- 食事席：色温度 3500K でリラックスできる雰囲気（光が届かない場所には、同等の色温度の照明器具（ペンダントライトなど）で照らす）

コンセプトダイアグラム



出典・参考文献：行動経済学・環境心理学における照明と消費者行動に関する研究

Meal Flow Liner の仕組み



「光の流れ」そのものが照明器具の役割を担う。木枠と内側にあるアルミに埋め込まれたLEDのライン照明が、食券→食事席に向かって色温度がグラデーションになっている。

Meal Flow Liner の推しポイント4選

- ① **デザイン性**：木枠とアルミラインが一体となった美しい八の字曲線形状
- ② **導線誘導**：食券機から食事席に向かう「光の流れ」と「手動色温度」
- ③ **機能面**：メインはLEDのライン照明でアプリで調色調光が可能であり、更に+αでアルミ部分が電源供給レールを兼ねており、必要な箇所に超小型スポットライトをマグネットで容易に設置可能
- ④ **視覚的効果**：サラダバー（4500K）と揚げ物（3000K）で最適な光の色を使いわけ、食材の魅力を最大限に引き出す。